

令和6年度 高校2年 理系特進コース シラバス

□教科	芸術（音楽I）			
□授業時数	2時間／週			
□教材	高校生の音楽I（教育芸術社）、Music Note（啓隆社）			
□学習到達目標	芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、芸術文化についての理解を深め、豊かな情操を養うことができるようにする。			
□成績評価基準	各単元ごとの実技テスト、平常点（授業態度や課題提出状況など）			
□授業計画	月	単元・項目	内 容	備 考
	4	<ul style="list-style-type: none"> ・1年間の授業計画について ・歌唱 校歌 ・歌唱 「オーソレミオ」（イタリア語） 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年間の授業について知る。（内容、テストや提出物について） ・校歌を3番まで歌えるようにする。 ・日本語や外国語に関心をもち、独唱曲のよさに触れる。 ・カンツォーネの魅力に触れる。 	実技テスト
	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ソルフェージュ コンコーネNo. 50 コールユーブンゲンNo36 聴音 ・器楽 リコーダー 「パッヘルベルのカノン」4重奏 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱の基礎的能力を高める。 ・正しい音程を繰り返し練習し、習得する。 ・簡単なリズムやメロディーを聴き取り、正しく五線に書く。 ・旋律を聴き取り、読譜などの練習を通して、楽曲を豊かに表現するための技能を身につける。 ・音量やアーティキュレーションなどに留意しながら、調和のとれたアンサンブルをする。 ・互いの音を聴き合い、各パートの役割を意識しながら演奏する。 	
	6	<ul style="list-style-type: none"> ・器楽 リコーダー 「パッヘルベルのカノン」4重奏 ・鑑賞 「グレイテストショーマン」 	<ul style="list-style-type: none"> ・仕上げとして、グループで練習する。 ・お互いのパートを聴き合いながら演奏する。 ・ミュージカルの歴史について知る。 ・ミュージカルの魅力に触れる。 	実技テスト 感想提出
	7			
	9	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱 「栄光のかけはし」二重唱 	<ul style="list-style-type: none"> ・互いの音を聴き合い、各パートの役割を意識しながら歌う。 ・曲にあった発声で歌う。 ・曲の背景を知る。 ・美しいハーモニーを目指して歌う。 ・音楽記号を理解して表現に生かす。 	実技テスト

令和6年度 高校2年 理系特進コース シラバス

□授業計画	月	単 元・項 目	内 容	備 考
	10	・自由課題	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的, 積極的に取り組む。 ・楽器の組み合わせや, 演奏方法など創意工夫して練習する。 ・自分なりのイメージを持って演奏する。 	実技テスト (演奏会形式)
	11	・鑑賞 「レ・ミゼラブル」	<ul style="list-style-type: none"> ・ミュージカルの魅力に触れる。 ・登場人物それぞれの心情を考える。 	感想提出
	12			
	1	・歌唱 「ふるさと」二重唱	<ul style="list-style-type: none"> ・曲にふさわしい発声の仕方 で表現する。 ・パート間のバランスなどに注意して歌う。 ・プレスコントロールをしながら歌う。 	実技テスト
	2	・器楽 「クラッピング・カルテット」	<ul style="list-style-type: none"> ・様々なリズムを理解し, 表現する。 ・ハンドパーカッションによる強弱を工夫し, 演奏表現の幅を広げる。 ・リズム創作とボディーパーカッション 	実技テスト
	3			

令和6年度 高校2年 理系特進コース シラバス

□教科	芸術（美術Ⅰ）			
□授業時数	2時間／週			
□教材	高校生の美術1（日本文教出版），ポスターカラーセットその他			
□学習到達目標	美術の幅広い創造活動を通して，美的体験を豊かにし，生涯にわたり美術を愛好する心情を持つとともに，感性を高め，創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし，美術文化についての理解を深めることが出来るようにする。			
□成績評価基準	年間を通じた課題提出作品の平均，平常点（授業態度，忘れ物の有無，課題提出状況など）の総合評価			
□授業計画	月	単元・項目	内 容	備 考
	4	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス ・「静物デッサン」 	<p>一年間の予定，必要な用具などについて理解する。</p> <p>モチーフはハーフブロックとハーフレンガ，美術表現の基礎としての鉛筆によるデッサンをする。</p>	<p>A3画用紙 鉛筆 モチーフ 参考作品提示</p> <p>作品提出</p>
	5	<ul style="list-style-type: none"> ・「名作模写」 	<p>『真珠の耳飾の少女』フェルメール， 『おさげ髪の少女』モディリアーニ， どちらかを選んで模写をする。</p> <p>グリッド線のある見本①を見て，鉛筆で下書きする。 次にカラーの見本②を参考に，ポスターカラーで着彩する。</p>	<p>A3ワトソン紙 鉛筆 ポスターカラー 見本①(グリッド 印刷済み，白黒) 見本②(カラー)</p>
	6	<p style="text-align: center;">↓ 継続学習</p>		<p>作品提出</p>
	7	<p style="text-align: center;">評価</p>	<p>①静物デッサン ②模写</p>	
	9	<ul style="list-style-type: none"> ・「自画像デッサン」 	<p>鉛筆による自画像のデッサン。 鏡を良く見て描く方向を決め，自分の内面をも見つめながら表現する。</p>	<p>A3画用紙 鏡 鉛筆 参考作品提示</p> <p>作品提出</p>

令和6年度 高校2年 理系特進コース シラバス

□授業計画	月	単 元・項 目	内 容	備 考
	10	・「木版画（自画像）」	自画像デッサンを下絵にして、次に木版画で表現する。 木版画は素材感が強く、左右が反転したり、白と黒以外の中間諧調が表現できないなど、デッサンとはまったく異なる表現形式である。	シナベニヤ 彫刻刀 トレーシングペーパー カーボン紙 墨汁・面相筆 インク ローラー パレン ウエス 鳥の子紙 参考作品提示
	11	・「静物デッサン」	モチーフは市松模様の台紙と透明なガラスのコップ。 美術表現の基礎としての鉛筆によるデッサンをする。	作品提出 A3画用紙 鉛筆 参考作品提示 作品提出
	12	評価	①自画像デッサン ②木版画 ③静物デッサン	
	1	・「カッティングによる平面構成」 ↓	色画用紙を切り貼りして平面構成を行う。条件は次の通り。 ・台紙(A3ケントボード)の中央に画面を作成・構成する。 ・8センチ×8センチの正方形を9枚並べる形で構成する。 条件を満たせば、どのような構成でも基本的には可とする。 ただし美術作品としての平面構成である以上美しさを追求する。	色画用紙 (20色以上) A3ケントボード ステンレス定規 カッター カッティングマット スティックのり 木工用ボンド 参考作品提示
	2	↓ 継続学習		作品提出
	3	評価	①平面構成	

令和6年度 高校2年 理系特進コース シラバス

□教科	芸術（書道Ⅰ）			
□授業時数	2時間／週			
□教材	書Ⅰ（光村図書）			
□学習到達目標	書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を持てるようにする。加えて感性と書写能力を高め、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばせるようにする。書の伝統と文化についての理解を深められるようにする。			
□成績評価基準	年間を通じた課題作品、平常点(授業への取り組み・制作態度、忘れ物の状況、課題提出状況等)などによる総合評価			
□授業計画	月	単元・項目	内 容	備 考
	4	○ ガイダンス ○ 四書体の確認（氏名） 1 楷書の学習	○ 年間の授業展開について ○ 楷・行・隸・篆書の四書体による氏名の確認 ○ 楷書の特徴・用筆と運筆	
	5	2 楷書の学習	○ 書体変化の概念を理解し、篆書の位置づけ、基本的な用筆・運筆を知り、楷書への展開をする	プリント
	6	3 漢字仮名交じりの書の学習 「短冊」	○ 漢字と仮名の調和、形式に応じた全体構成の方法について理解する ○ 仮名の連綿による表現 ○ 自作の俳句・短歌等を短冊にバランス良くまとめる	
	7			
	9	○ 展覧会作品	○ 各自の多様な表現で展覧会作品を制作 鷗友書道展への作品出品（表彰は3学期）	

令和6年度 高校2年 理系特進コース シラバス

□授業計画	月	単 元・項 目	内 容	備 考
	10	4 篆刻の学習	○ 書道 I から継続し、氏名を篆刻で制作する	
	11	同上	同上	
	12			
	1	5 細字の学習	○ 単純明快な運筆を学習する ○ 小筆の運筆・執筆法 ○ 集中力の養成	プリント
	2	6 創作	○ 各自が選択した題材を1年間で学習した執筆法により色紙を完成させる ○ 倣書から創作へ	プリント
	3			